

私たちのまちと 自動車産業

平成18年版

豊 田 市

は し が き

ここに「私たちのまちと自動車産業」（平成18年版）を刊行いたします。

本書は、豊田市の自動車産業に主眼をおき、各種データ、統計資料から市勢の現況や推移、発展をわかりやすくまとめたものです。この書が、児童・生徒の学習に、学術研究の基礎資料にご利用いただければ幸いです。

また、編集に当たっては、できる限り最新の資料を収集し、利用しやすいよう内容の充実を努めました。が、いまだ不十分な点等につきましては、今後とも皆様のご指導をいただき、より一層内容の充実・改善を図っていきたいと考えています。

終わりに、本書の刊行にあたり貴重な資料を提供いただきました関係各機関の方々に対し、深く感謝の意を表しますとともに、今後ともなお一層のご指導とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成18年2月

豊 田 市

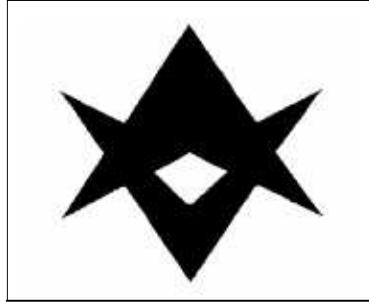
豊田市民の誓い

わたくしたちは、七州をのぞむ美しい山河にかこまれ、
輝かしい衣の里の歴史と伝統をうけつぎながら、
明日に向かって伸びゆく豊田市の市民です。

1. 緑をはぐくみ、川を大切にして、
豊かな自然を愛しましょう。
1. スポーツに親しみ、教養を高めて、
文化の向上につとめましょう。
1. 元気で働き、若い力をそだてて、
幸せな家庭をつくりましょう。
1. 互いに助けあい、心の輪をひろげて、
あたたかい町をつくりましょう。
1. いのちを尊び、きまりを守って、
住みよい社会をつくりましょう。

※昭和53年3月1日の市制27周年記念日に制定・発表。これは52年に行った市民からのアンケートをもとに、豊田市民の誓い制定市民会議によってまとめられたもので「自然」「文化」「生活」「福祉」「道徳」の5項目を盛り込んでいます。

◆市章



昭和26年11月に制定。
豊田市が昔「衣の里」と呼ばれていたことから「衣」の文字を図案化し、旧挙母藩内藤家の紋などに見られる「ひし型」を形どったものです。

◆市の花
ひまわり



昭和40年3月、公募によって決定。力強く太陽に向かって咲く「ひまわり」のように、市民のすべてに幸せの花を咲かせようという願いがこもっています。

◆市の木
けやき



昭和46年3月、市制20周年を記念して公募により決定。緑のあるまちづくりをめざし、昭和47年から転入・結婚・出産の記念樹として、苗木をプレゼントしています。

目 次

ページ

1. 豊田市の位置	1
2. 豊田市の歴史	2
3. 豊田市の気候	4
4. 豊田市の土地利用	4
5. 豊田市の人口	5
(1) 人口のうつりかわり	5
(2) 人口の年齢別構成	6
(3) 男と女の割合	7
(4) 豊田市へきた人	8
6. 豊田市の産業	9
(1) 豊田市の農業	11
(2) 豊田市の商業	12
(3) 豊田市の工業	13
① 工場数などのうつりかわり	13
② どんな会社の工場が多いか	15
③ どんな会社の工場働く人が多いか	16
④ どんな会社の出荷額が多いか	17
⑤ 工場の大きさ	18

7. 自動車産業	19
(1) トヨタ自動車	19
(2) 豊田市の自動車産業のはじまり	21
(3) 自動車産業の発展	23
(4) 関連会社の工場	24
(5) 工場のつながり	25
(6) 自動車の輸出と海外生産	26
8. 自動車のできるまで	27
9. 豊田市の変化	31

写真でみる豊田市

豊田スタジアム	33
豊田市美術館	34
豊田市コンサートホール・能楽堂	35
豊田おいでんまつり	36
挙母まつり	37
猿投まつり	37
四季桜まつり	38
香嵐溪	38

参考

【工業】製造品出荷額等 全国順位・県内順位	40
-----------------------	----

この本についてのお問合せは、下記担当までお願いします。

豊田市役所 総務部庶務課 選挙統計担当

〒471-8501 豊田市西町3-60

電話 (0565) 34-6667

FAX (0565) 31-8623

1. 豊田市の位置

豊田市は愛知県の中央部、県庁所在地である名古屋市から東へ約 30km のあたりに位置しています。面積は 918.47 k m² で、愛知県では第 1 位、そのうちおよそ 7 割が緑でおおわれています。また、市のほぼ中心部を矢作川が北から南に流れています。

春の桜、夏のアユつり、秋の紅葉、冬の樹氷など、水と緑にめぐまれた内陸工業都市となっています。



Copyright © 2006 AICHI Prefecture All rights reserved.

2. 豊田市の歴史

豊田市は、江戸時代まで挙母藩2万石の城下町を中心として栄えていました。東部の松平地区は、あの徳川家康の先祖の発祥地としても、知られています。明治時代になって、挙母村ができ、まわりの村と合併して、挙母町になりました。

明治から昭和のはじめごろまでは、マユの取引地として栄えていました。

昭和13（1938）年にトヨタ自動車の工場ができて、自動車のまちとして発展を始めました。

昭和26（1951）年に挙母市となり、市制が施行されることとなります。その後高橋村と合併し、昭和34（1959）年、挙母市は市名を豊田市と変更しました。その後、4町村と合併をしました。

そして、平成17年（2005）年に、藤岡町・小原村・足助町・下山村・旭町・稲武町の6町村と合併して「新」豊田市となり、現在にいたります。

豊田市のうつりかわり

◇ 昭和26（1951）年 市制施行「挙母町」から「挙母市」となる。

◇ 昭和31（1956）年 西加茂郡高橋村と合併

◇ 昭和34（1959）年 市名を「挙母市」から「豊田市」に変更

◇ 昭和39（1964）年 碧海郡上郷町と合併

◇ 昭和40（1965）年 碧海郡高岡町と合併

◇ 昭和42（1967）年 西加茂郡猿投町と合併

◇ 昭和45（1970）年 東加茂郡松平町と合併

◇ 平成17（2005）年 西加茂郡藤岡町・小原村、東加茂郡足助町・下山村・旭町・稲武町と合併



昭和26年

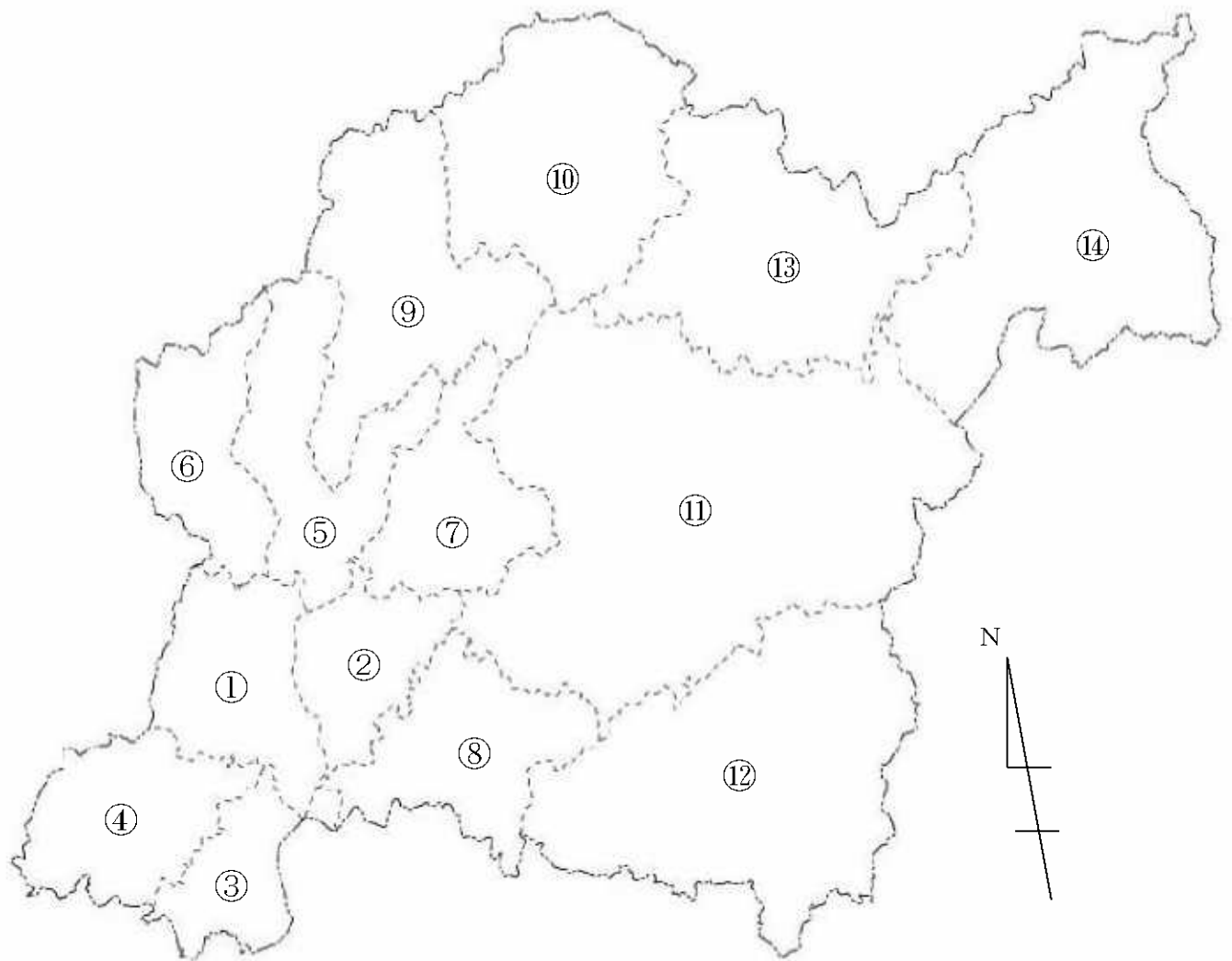


昭和34年



平成17年

地区区分および旧町村名

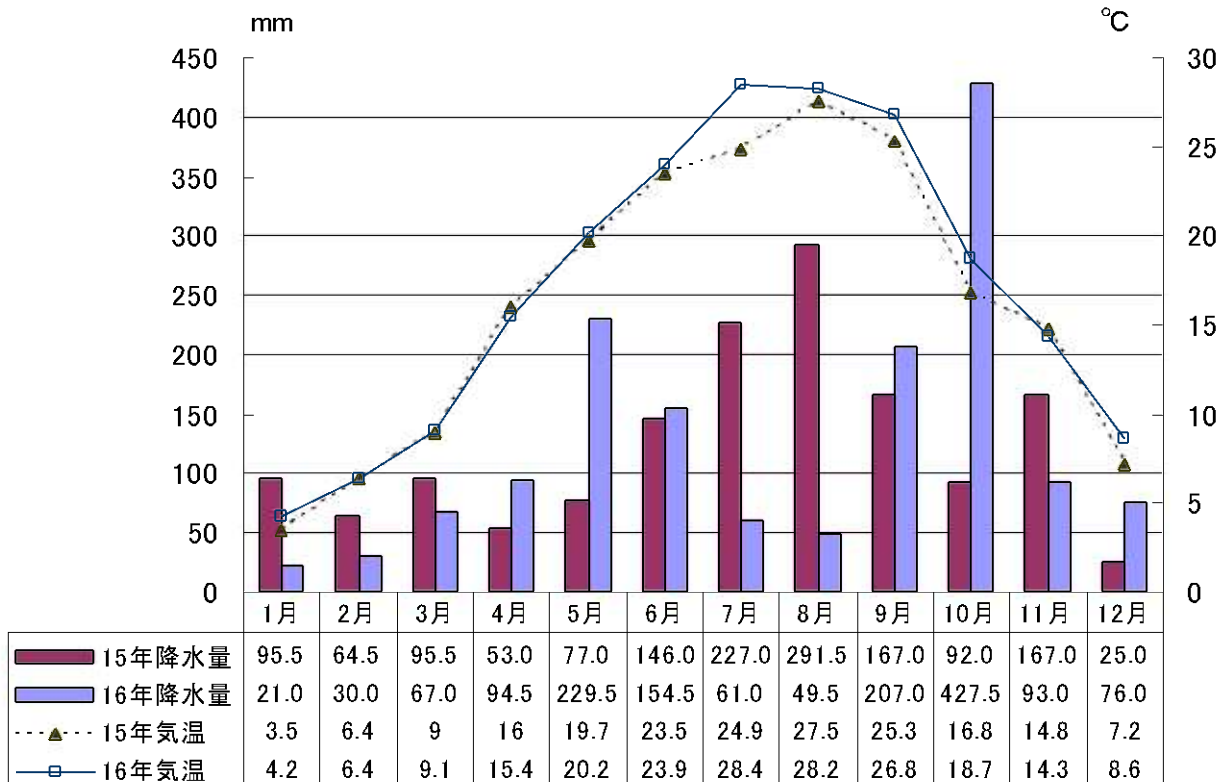


旧豊田市	①挙母地区 (旧挙母町)	昭和 26 年 3 月 1 日	市制施行
	②高橋地区 (旧高橋村)	昭和 31 年 9 月 30 日	合併
	③上郷地区 (旧上郷町)	昭和 39 年 3 月 1 日	合併
	④高岡地区 (旧高岡町)	昭和 40 年 9 月 1 日	合併
	⑤猿投 (中部) 地区	} 猿投地区 (旧猿投町)	昭和 42 年 4 月 1 日 合併
	⑥保見地区		
	⑦石野地区		
	⑧松平地区 (旧松平町)	昭和 45 年 4 月 1 日	合併
旧西加茂郡藤岡町	⑨藤岡地区	} 平成 17 年 4 月 1 日 合併	
旧西加茂郡小原村	⑩小原地区		
旧東加茂郡足助町	⑪足助地区		
旧東加茂郡下山村	⑫下山地区		
旧東加茂郡旭町	⑬旭地区		
旧東加茂郡稻武町	⑭稻武地区		

3. 豊田市の気候

豊田市は、比較的太平洋に近い位置にあるため、梅雨のころと秋の台風の際に雨が多く、冬に少ない気候です。また、気温もそれほど暑くも寒くもなく、一年を通じて住みやすい気候です。

月間平均気温と降水量



注：平均気温は1日平均気温の1か月の平均である。降水量は1か月の計である。旧豊田市分。

資料：豊田市消防本部

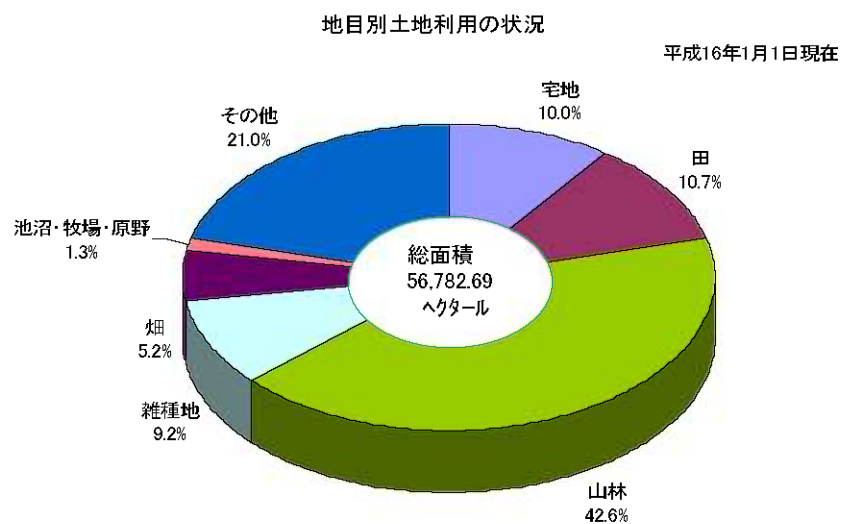
4. 豊田市の土地利用

豊田市は“工業のまち”とよばれているため、まちの中は工場ばかりだと思われているかもしれませんが、本当はそうではありません。

豊田市の面積の多くは山林や田畑となっています。まだずいぶん自然の残っているまちです。

資料：資産税課（市の総面積とは一致しない。）

※ グラフは合併後の新市域で計算。



5. 豊田市の人口

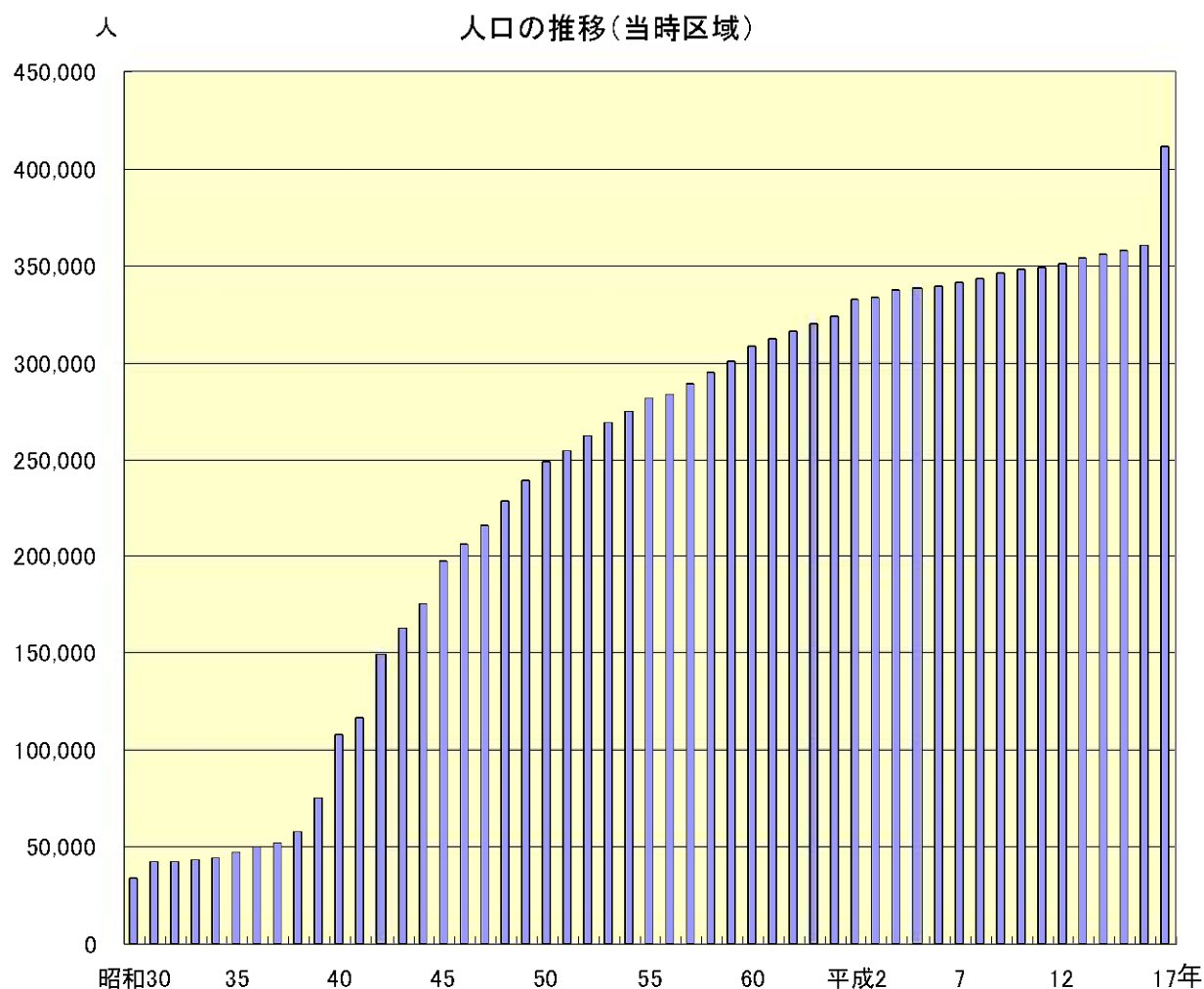
(1) 人口のうつりかわり

豊田市の人口は、現在（平成 18 年）およそ 41 万人です。愛知県では、名古屋市に次いで第 2 位です。昭和 30 年代後半から、人口が急に増え始めました。それまでは、あまり大きな市ではありませんでした。

日本は、昭和 35（1960）年ごろから昭和 48（1973）年ごろまで、景気の良いときがずっと続きました。「外国に追いつけ、追いこせ！！」というかけ声とともに、企業はいっしょうけんめいに新しい技術や製品を考え出し、品物をどんどんつくりました。この時期を「日本の高度経済成長期」といいます。

自動車も、このころからよい製品が安く生産されるようになり、国内や海外でたくさん売れるようになりました。トヨタ自動車も、昭和 34（1959）年に元町工場をつくったあと、次々に工場をつくり、生産を増やしました。

工場をつくると、そこで働く人もたくさん必要になってきます。まわりの市町村だけでなく、全国から働く男の人がたくさん豊田市へ来ました。こうして豊田市の人口は、トヨタ自動車やその関連会社で働く人と、その家族が増えることで増加しました。昭和 59（1984）年 8 月に 30 万人都市の仲間入りをした後、人口はゆるやかに増加し、平成 17（2005）年 4 月、合併により 40 万人を突破しました。



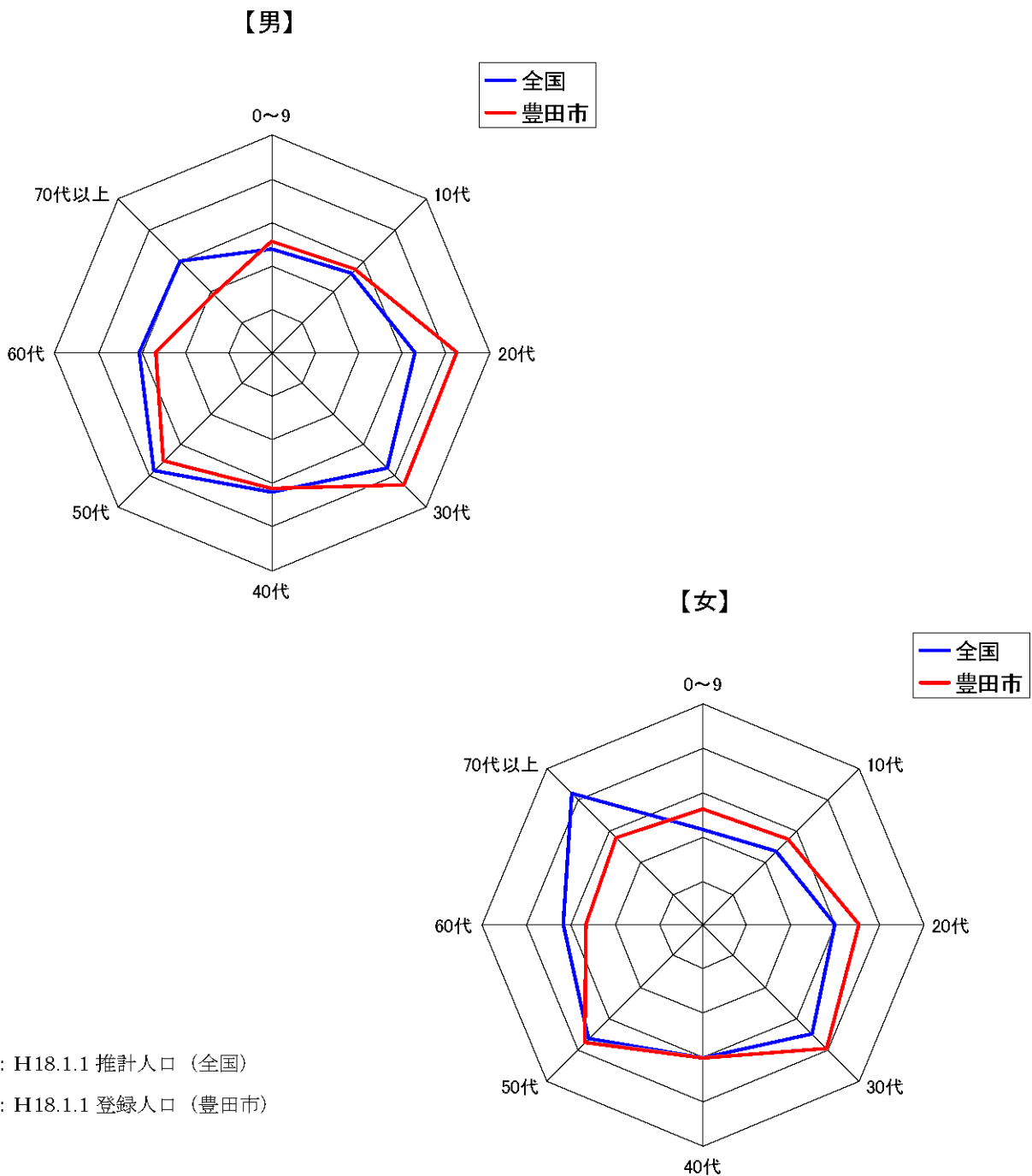
資料：豊田市統計書

(2) 人口の年齢別構成

このグラフは、豊田市と全国の年齢別構成の割合をあらわしています。だいたいの形はよく似ていますが、注意して見ると少し違いがあることがわかります。

全国と比較してみると、豊田市は男女ともに20代、30代の構成割合が高くなっています。ここには、自動車の関連会社で働く、多くの若い働き手が含まれています。また、全体的にみても、豊田市は40代までの人口割合が高く、また70代以上の割合は大変低くなっています。このことから、豊田市は全国的にみて、若いまちだと言えます。

豊田市・全国 年齢別人口構成（10歳階級）

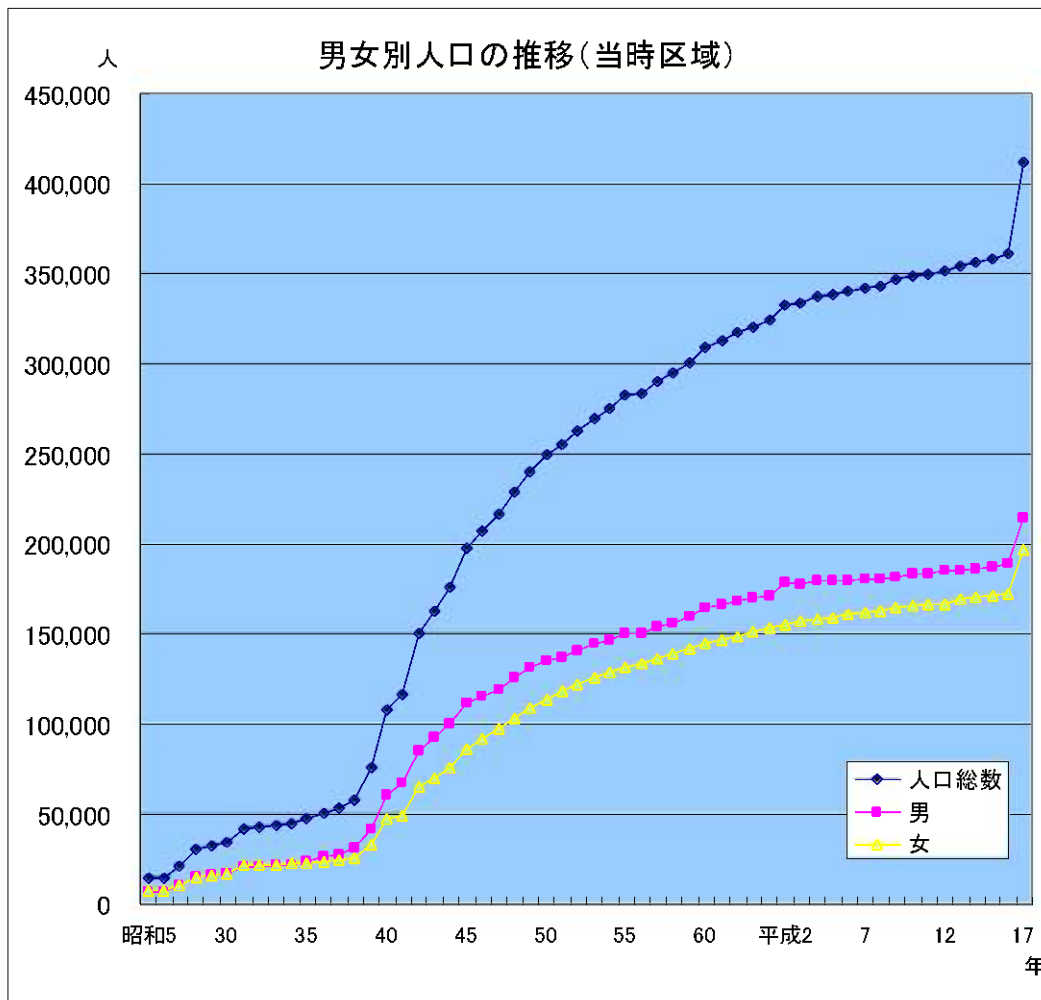
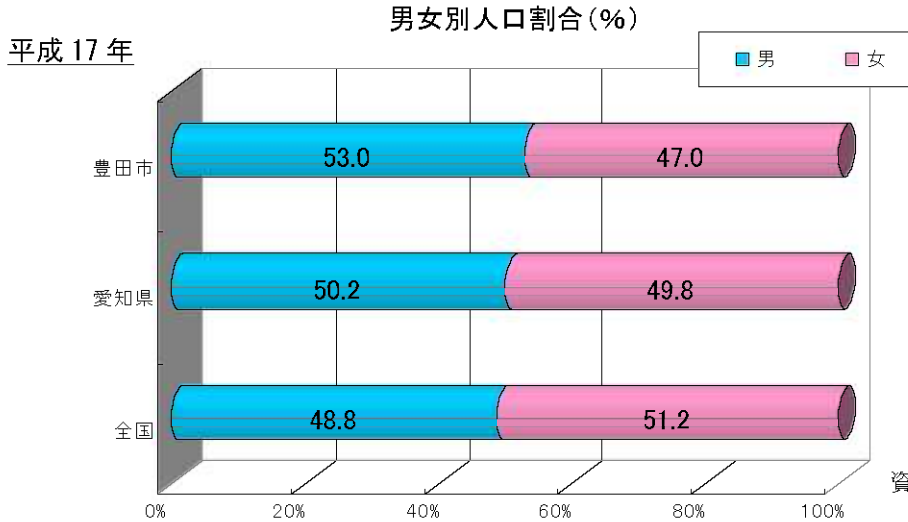


資料：H18.1.1 推計人口（全国）

：H18.1.1 登録人口（豊田市）

(3) 男と女の割合

昭和 30 (1955) 年ごろまでは、男女の差はそれほどありませんでしたが、豊田市に働きに来る人が増え、男の人が女の人を上回るようになり、昭和 45 (1970) 年には男の人が 56%になりました。このときは女の人 10 人に対して、男の人が 13 人という割合でした。(H17 国勢調査 (女):(男) ≒ 10:11)

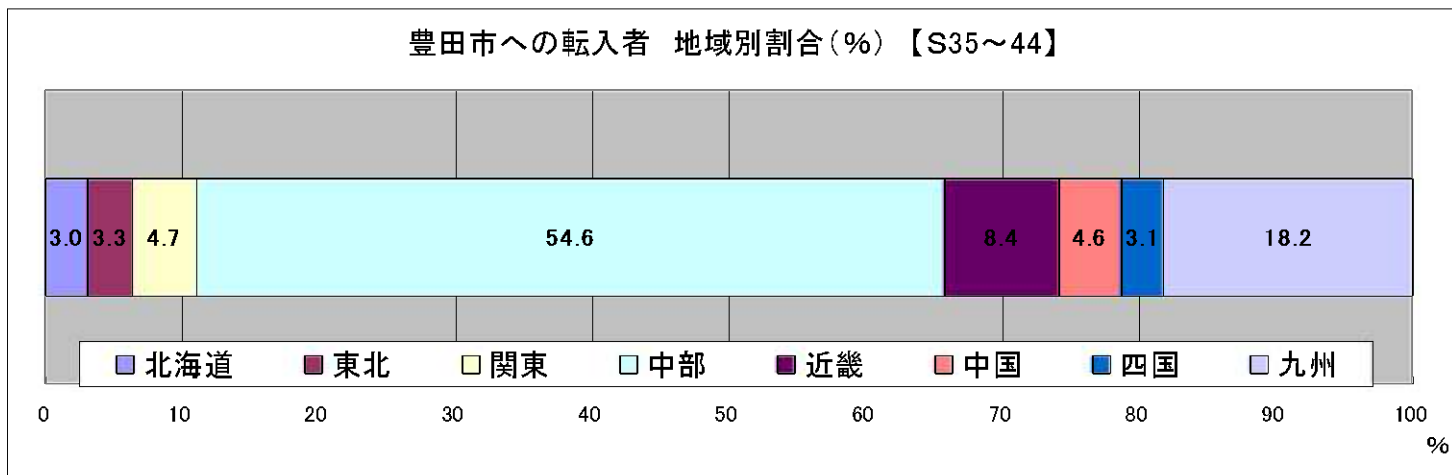


その後、男の人と女の人との差は少しずつ小さくなってきましたが、やはり、豊田市では男の人が多く、愛知県全体や全国と比べても、男の人が多いという特徴はかわっていません。

(4) 豊田市へきた人

人口が急激に増加したころ、豊田市に働きにきた人は、どこからきたのでしょうか。

下の図や表でわかるように、愛知県内やその近くの県からきた人が多くいます。また、九州、四国、中国地方をはじめ、東北地方、北海道など、全国からたくさんの方が、仕事をもとめて豊田市へきました。



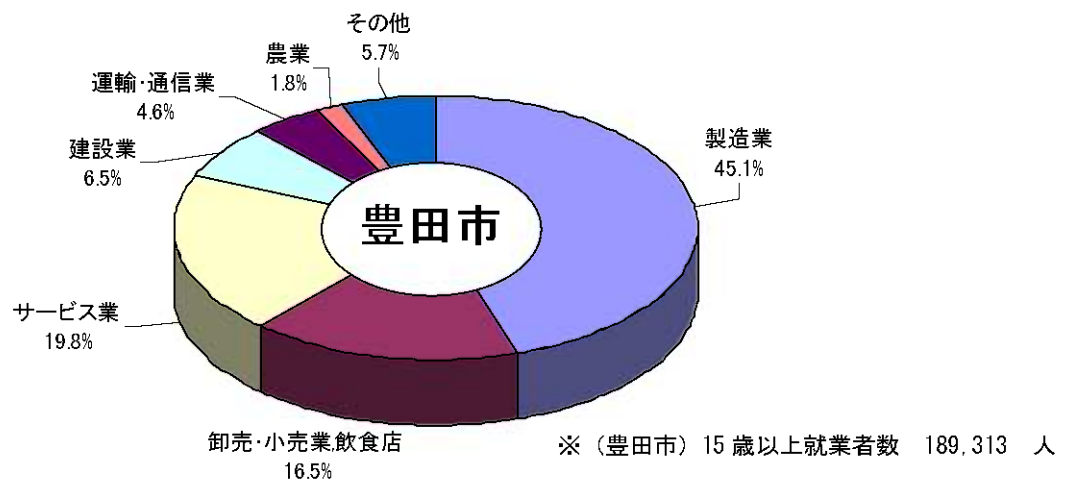
資料：豊田市統計書
市民課

6. 豊田市の産業

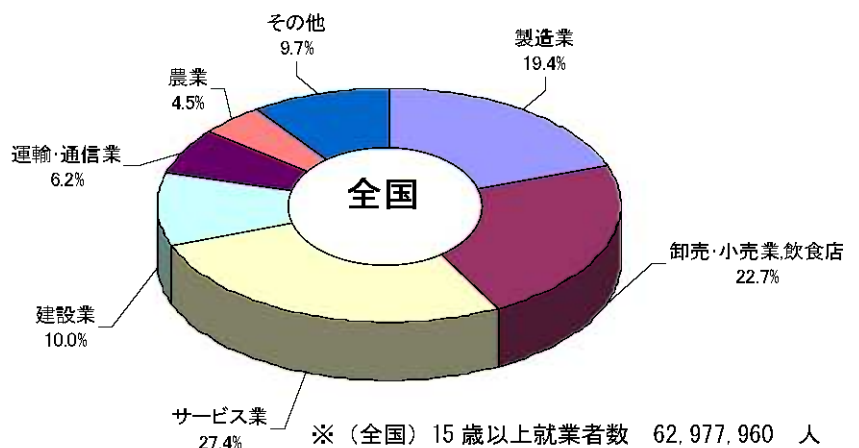
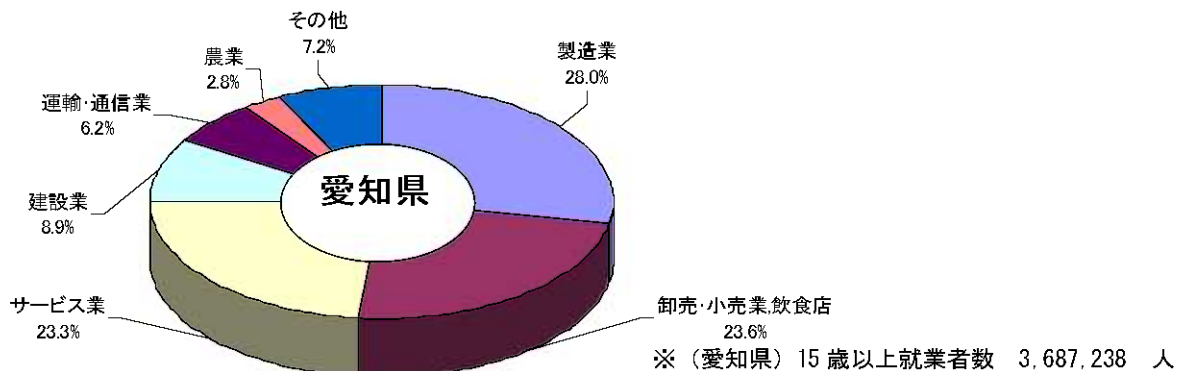
豊田市の産業の中心は工業（製造業）ですが、まず、産業全体について説明します。

平成 12（2000）年の国勢調査によると、当時の豊田市に住んでいた人はおよそ 34 万人ですが、そのうち働いていた人は、19 万人です。その中で、およそ 45%の人が製造業に従事していました。

主要産業別 15歳以上就業者数 構成比



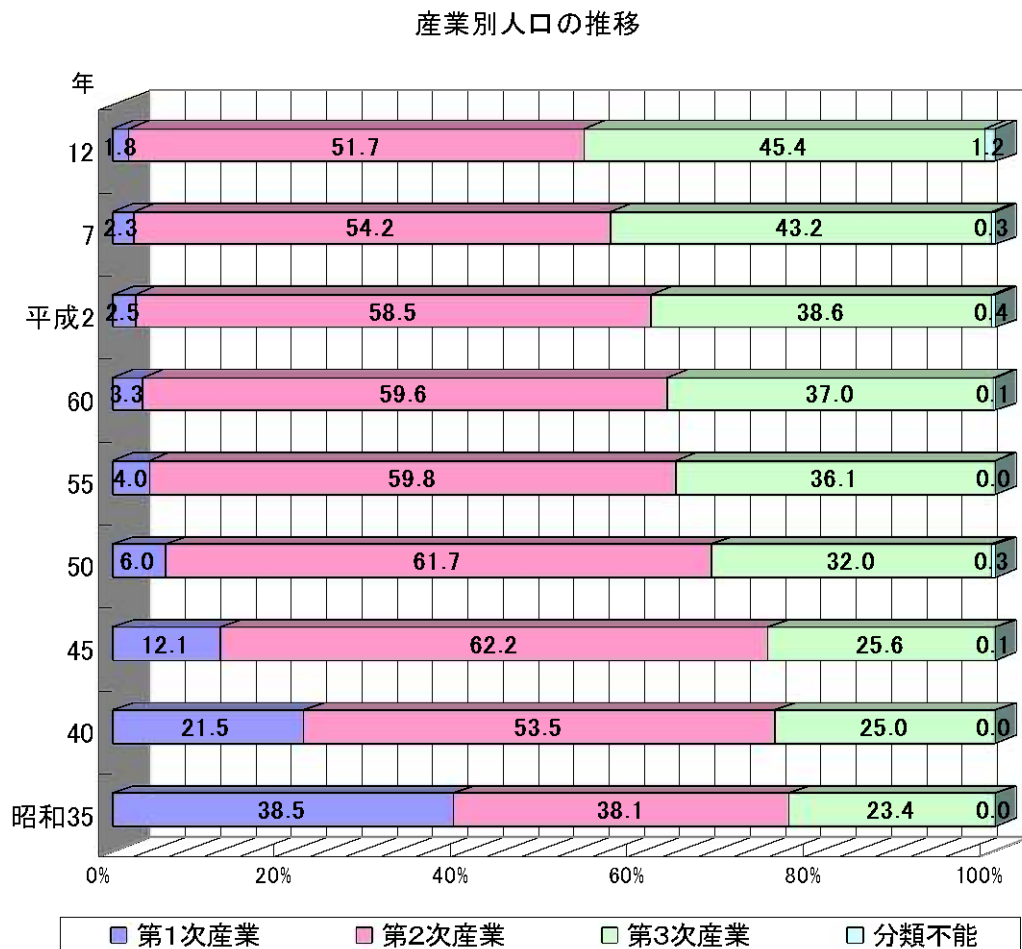
また、下のグラフから、愛知県や全国とくらべても、製造業の割合が高いことがわかります。



資料：国勢調査（H12）

しかし、昭和 35（1960）年ごろは、まだ農業など第 1 次産業の割合が高く、全体のおよそ 39%を占めています。

その後、自動車産業がさかんになるにつれて、第 2 次産業の割合が高くなってきました。また近年では、第 3 次産業も高い割合を占めるようになりました。



※ 第 1 次産業…農業、林業、漁業

※ 第 2 次産業…鉱業、建設業、製造業

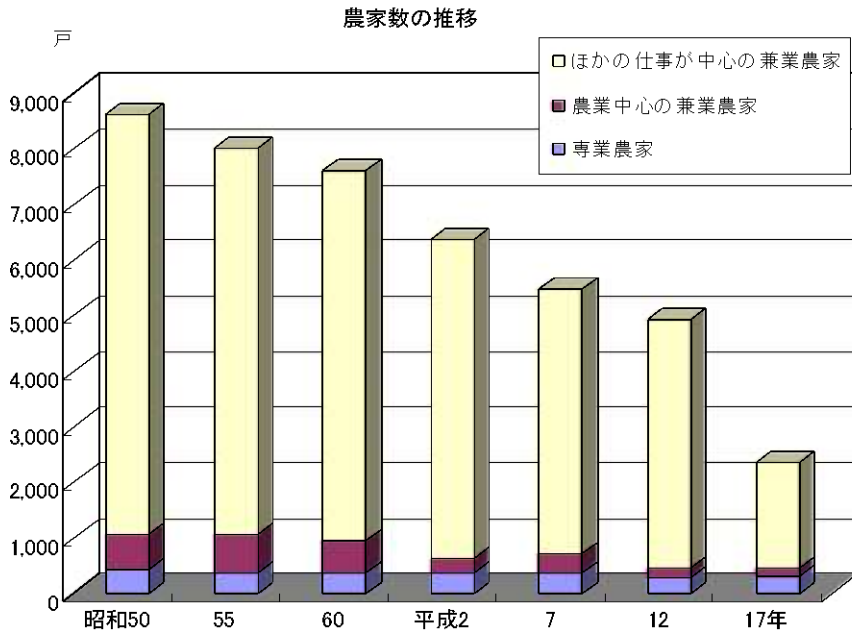
※ 第 3 次産業…電気・ガス、運輸・通信、卸売・小売、金融・保険、不動産、サービス、公務 など

資料：国勢調査

(1) 豊田市の農業

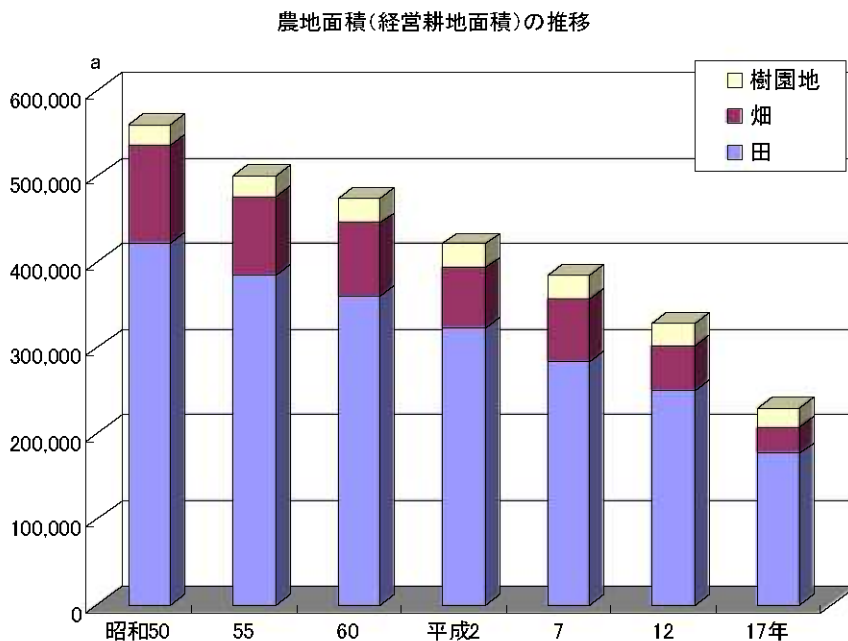
豊田市は工業のまちと言われているようですが、同時に、農業がさかんなまちでもあります。なかでも、桃・なし・はくさい・洋らん・かぶ・すいか・しいたけなどの出荷量が愛知県の中でも多いまちとなっています。

とはいえ、下のグラフからもわかるように、農家数は年々減少しています。



注:平成12年は、第2種兼業農家数に自給的農家1,680戸を含む。

これは、農業が機械化されてきたので、ほかにも仕事ができるようになってきたことや、工場がふえるにつれて、工場などで働いた方が安定した収入をえられるようになってきたことが大きな理由です。また、住宅や道路、工場の建設などにより、農地面積もだんだん減ってきています。(グラフ参照)



※H17…合併前(2.1)

資料:農林業センサス

(2) 豊田市の商業

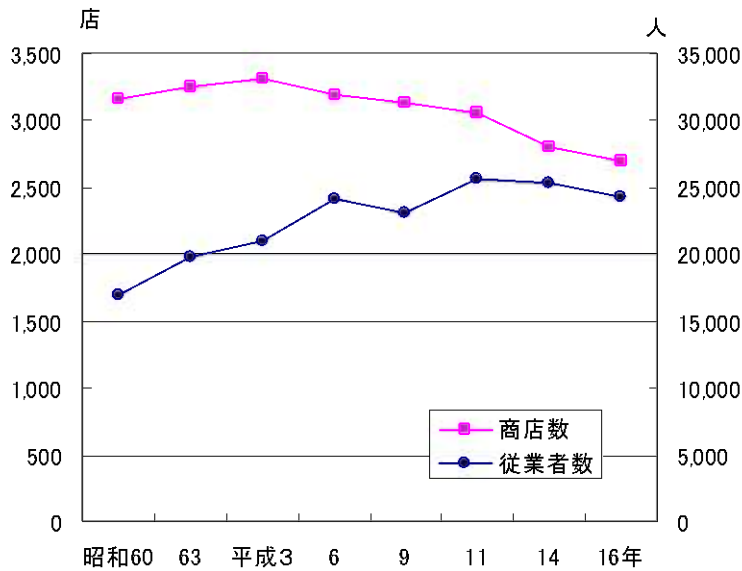
豊田市の商業は、工業ほど発達していません。

それでも商店数は県内で第5位、販売額では第2位です。

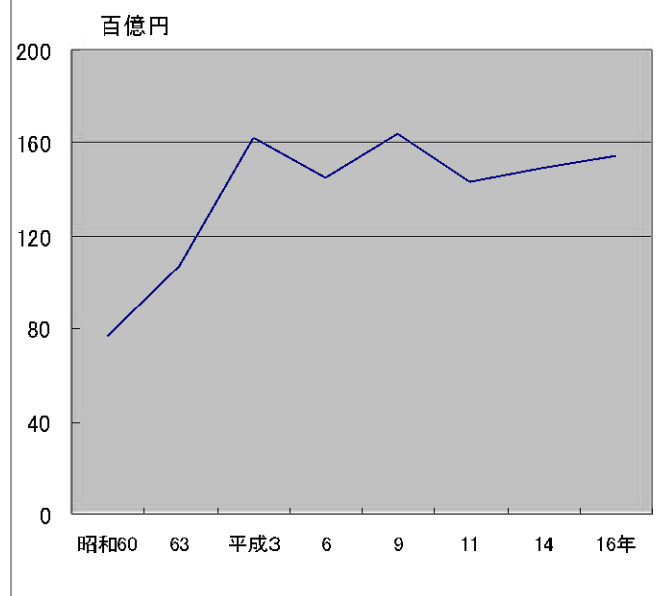
豊田市には、豊田市駅を中心とした商店街のほか、市内のあちこちに分散して商店街があります。これは、豊田市が合併により大きくなった市であり、昔の町や村の中心地に商店街があったり、大きな住宅団地が郊外にたてられ、その近くに商店街が作られてきたからです。

また、郊外の大型ショッピングセンターも、自家用車で買い物にくる人たちで、常ににぎわっています。現在、豊田市では駅周辺の整備が進められ、今後、さらなる発展が期待されています。

商店数、従業者数の推移



年間商品販売額の推移



資料：商業統計調査

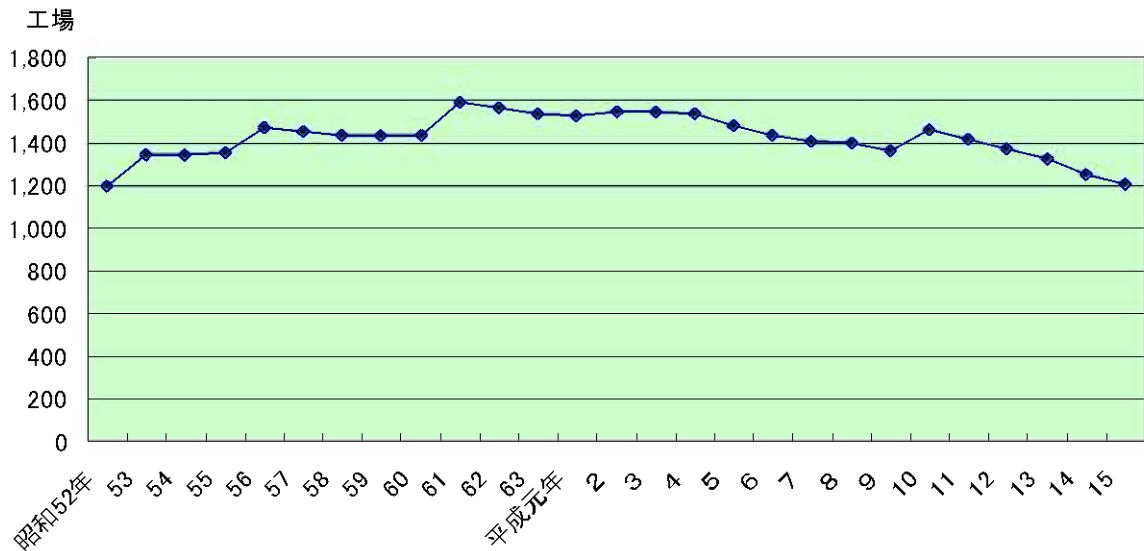
(3) 豊田市の工業

① 工場数などのうつりかわり

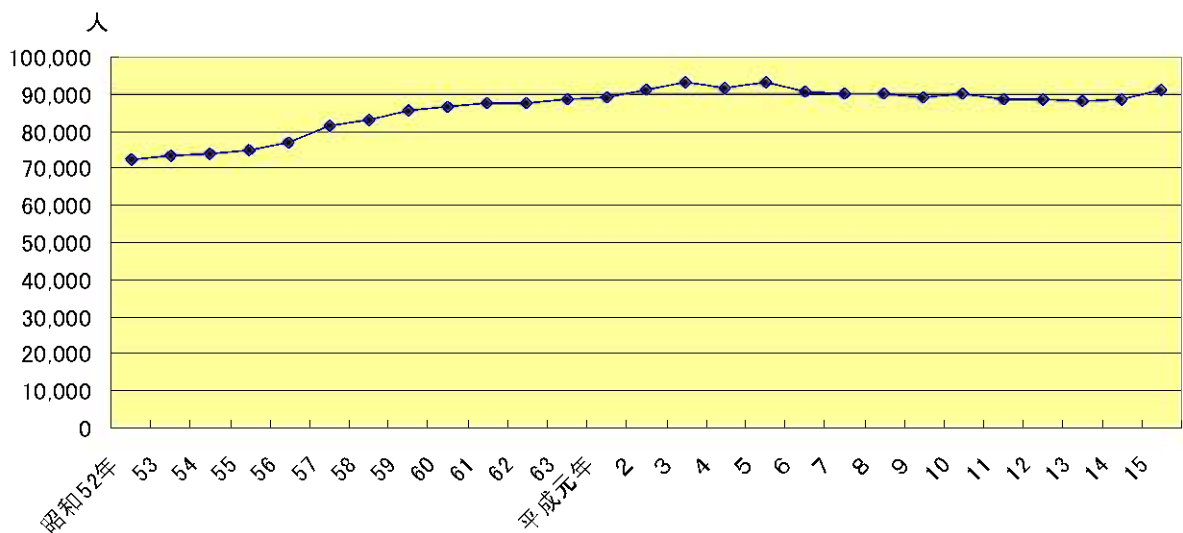
豊田市は、自動車産業の発展とともに伸びてきました。自動車会社の工場ができるまでは、農業が中心でした。工業では、製糸や紡績などの繊維工業がさかんでした。

自動車の生産が伸びるにつれて、自動車の部品をつくる会社の工場や、機械をつくる会社の工場がふえてきました。平成 15 (2003) 年 12 月現在、市内におよそ 1,200 の工場があり、働いている人はおよそ 9 万 1,000 人。製造品出荷額等は 9 兆 4 千億円を超え、全国で第 1 位となっています。

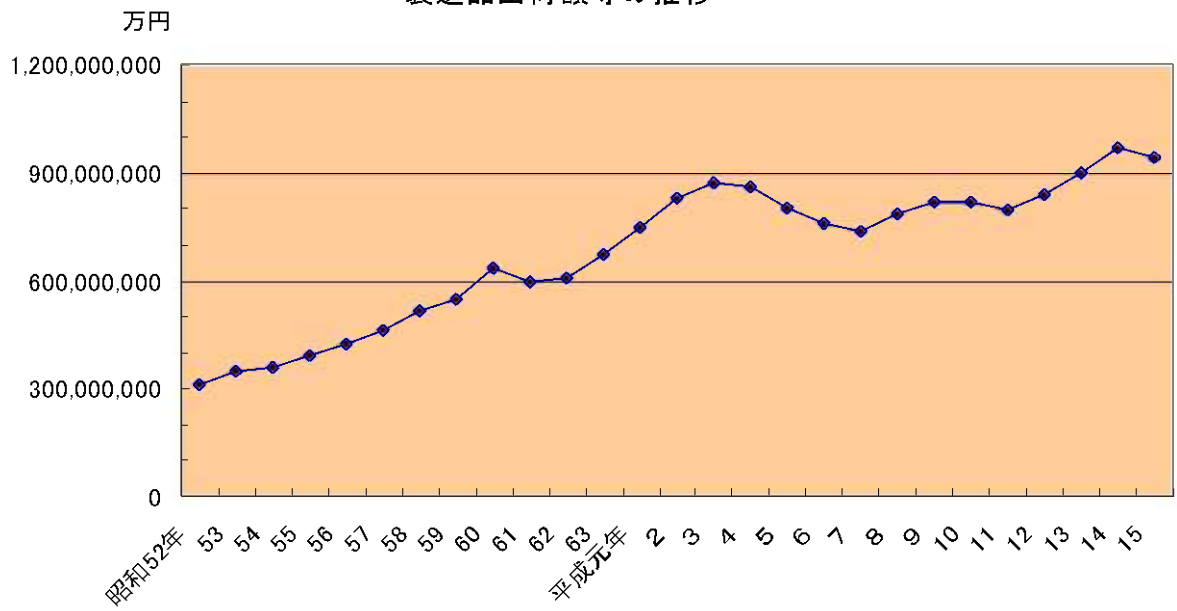
工場数の推移



従業者数の推移



製造品出荷額等の推移



資料：工業統計調査

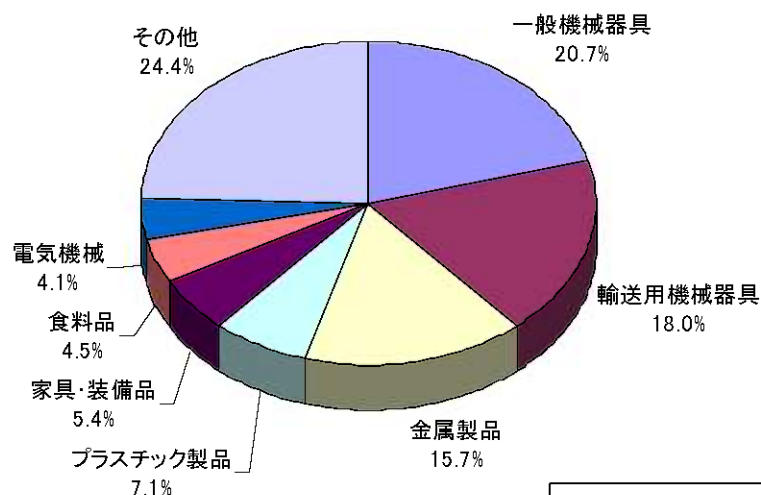
② どんな会社の工場が多いか

豊田市には、自動車部品会社の工場を中心に、たくさんの工場があります。おもに、自動車や自動車部品をつくる工場は「輸送用機械器具」に、また部品のプレス工場は「金属製品」に区分されています。

下のグラフからもわかるように、豊田市では、一般機械器具・輸送用機械器具・金属製品の3区分が半数以上を占めています。

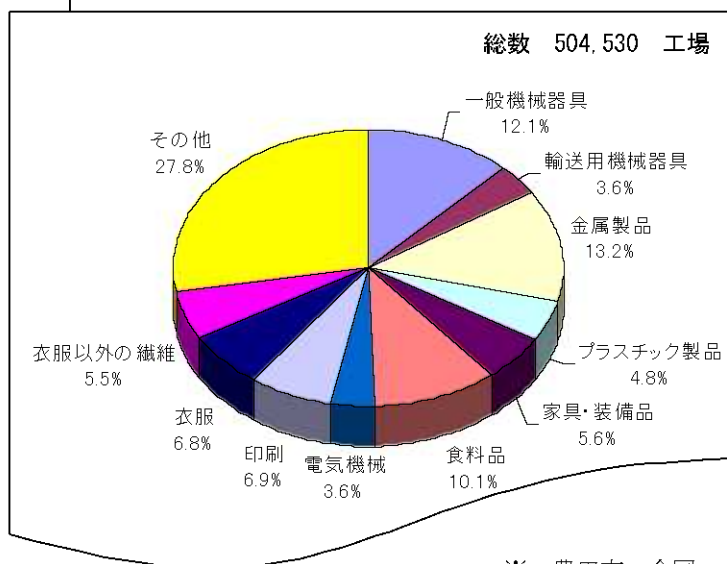
産業別工場数割合【豊田市】

総数 1,212 工場



産業別工場数割合【全国】

総数 504,530 工場



※ 豊田市・全国…全事業所

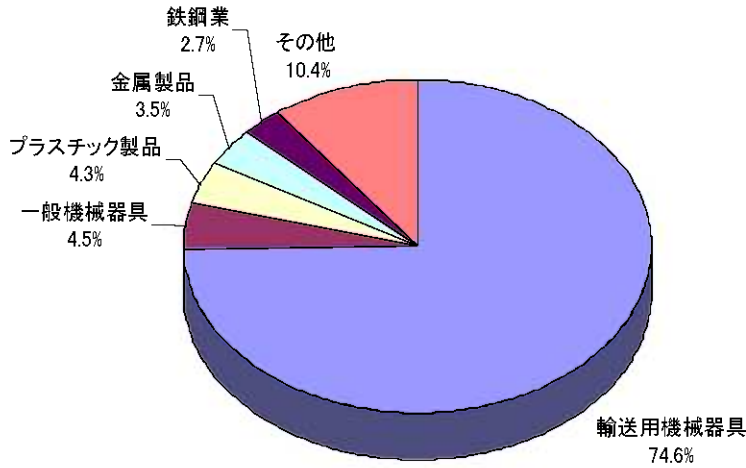
資料：工業統計調査（H15）

③ どんな会社の工場で働く人が多いか

豊田市内の工場に働いている人は、およそ9万 1,000 人です（平成15年末現在）。そのうち、自動車や自動車部品を含む「輸送用機械器具」は、全体のおよそ75%を占めています。また、下のグラフで【豊田市】と【全国】を比較してみても、豊田市は大変特徴的なグラフを描いていることがわかります。これは、豊田市では、自動車関連会社で働く人が非常に多いからだと言えます。

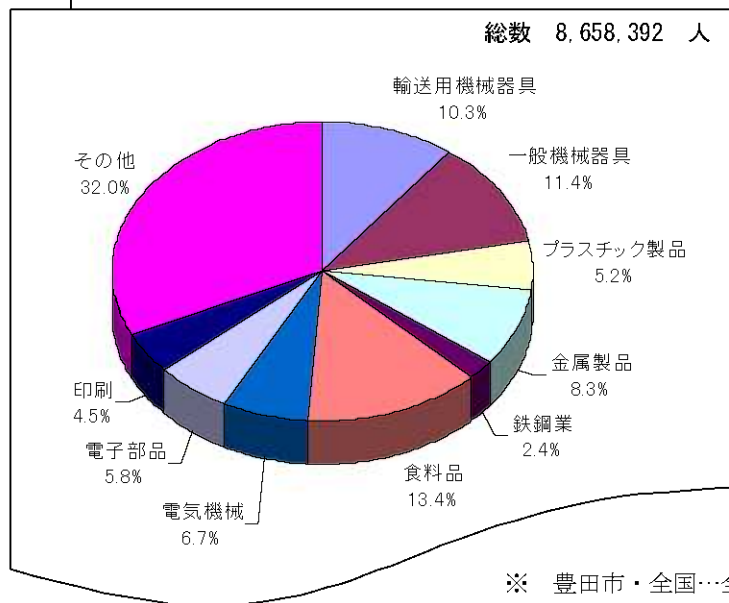
産業別従業者数割合【豊田市】

総数 91,081 人



産業別従業者数割合【全国】

総数 8,658,392 人

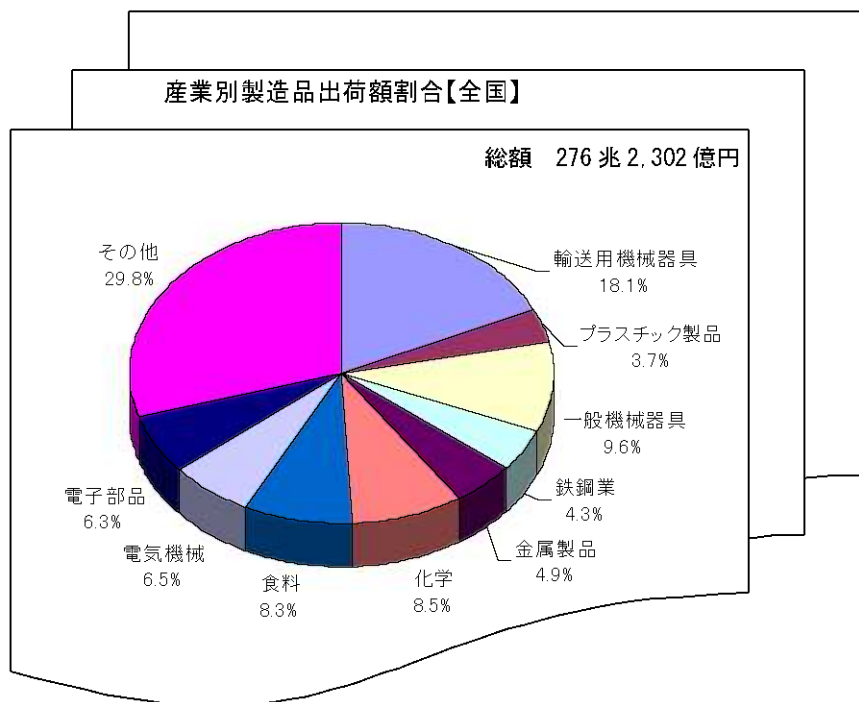


※ 豊田市・全国…全事業所
資料：工業統計調査（H15）

④ どんな会社の出荷額が多いか

自動車や自動車部品を含む「輸送用機械器具」の製造品出荷額等は、全体のおよそ 92%を占めています。

また豊田市は、平成 14（2002）年から、製造品出荷額等全国第 1 位となっていて、「クルマのまち」としてその名を知られるゆえんでもあります。

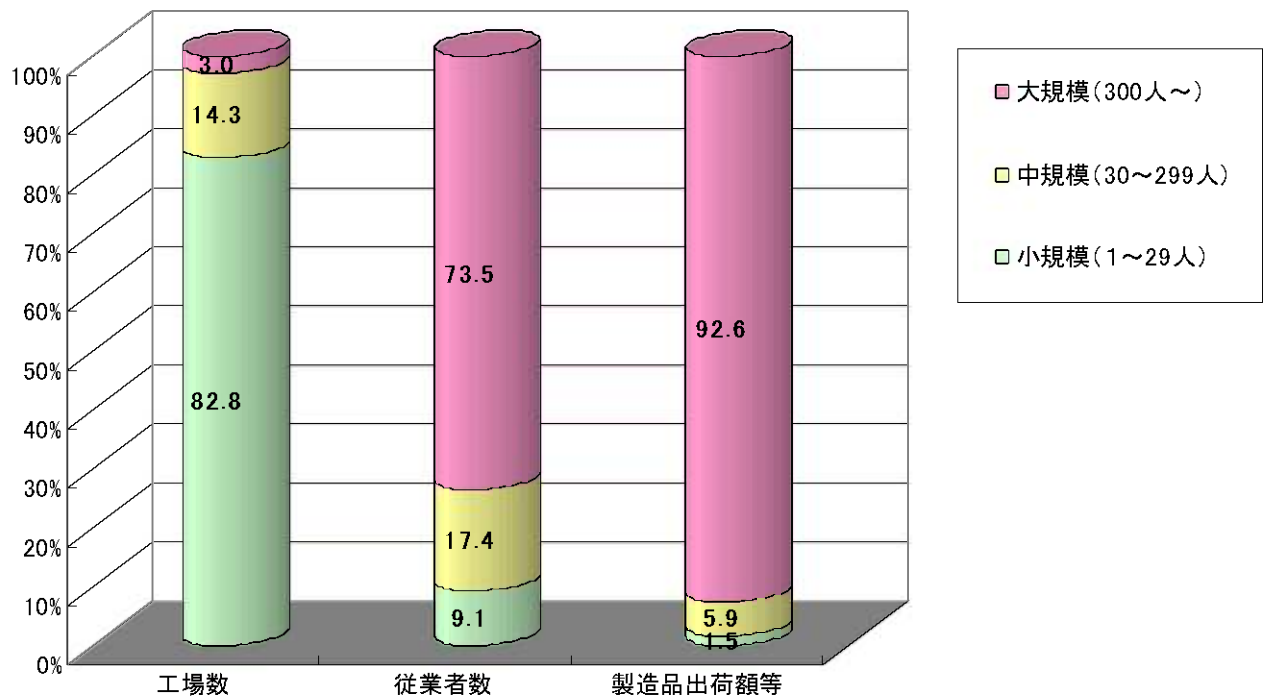


※ 豊田市・全国…全事業所
資料：工業統計調査（H15）

⑤ 工場の大きさ

工場数では、1～29人の小規模工場が全体のおよそ83%もあり、300人以上の大規模工場は、わずか3%しかありません。しかし、大規模工場で働く人の数は、全体のおよそ74%、また大規模工場の出荷額は、およそ93%をしめています。

従業者規模別 工場数・従業者数・製造品出荷額等



資料：工業統計調査（H15）

7. 自動車産業

(1) トヨタ自動車

豊田市の自動車産業の中心は、市内に本社のあるトヨタ自動車です。

トヨタ自動車は、日本の中でもたいへん売上げの多い会社で、1年間の売上げはおよそ9兆円にのぼります。また、自動車の生産台数は国内最多を誇っています。工場12ヶ所はすべて愛知県内、そのうち7ヶ所は豊田市内にあります。そのほか東京本社、名古屋ビル、静岡県に研究所、北海道に試験場などがあります。

元町工場



豊田市内にあるトヨタ自動車7工場
(平成16年4月8日現在)

市内にあるトヨタの7工場(平成16年4月8日現在)



堤工場



本社工場

トヨタ自動車の工場・研究所など

■国内の生産拠点

名称	事業内容・生産品目	完成年月	土地面積	建物面積	従業員数
①本社工場	ランドクルーザー100・ランドクルーザー70のシャシー、鍛造部品、足廻り機械部品	1938.11	55万㎡ ³	47万㎡ ³	2,598人
②元町工場	クラウン、プレビス、プログレ、マークX、マークIIプリット	1959.8	160	65	6,181
③上郷工場	エンジン	1965.11	87	69	3,177
④富岡工場	カローラ、アレックス、bB、プラッツ、ファンカーゴ、ヴィッツ、イスト、シエンタ、ボルテ	1966.9	136	47	5,370
⑤三好工場	足廻り、小物部品	1968.7	33	19	1,602
⑥暹工場	プリウス、カムリ、オーバ、プレミオ、アリオン、カルディナ、ウィッシュ、サイオンIC	1970.12	94	51	5,111
⑦明知工場	エンジン・足廻り鉄物部品、足廻り機械部品	1973.6	56	37	1,722
⑧下山工場	エンジン、排出ガス対策部品	1975.3	41	26	1,403
⑨衣浦工場	駆動関係部品	1978.8	84	64	2,927
⑩田原工場	セルシオ、クラウン、アリスト、ランドクルーザープラド、ハイラックス、RAV4	1979.1	403	159	6,833
⑪貞宝工場	機械設備、鋳造成型及び樹脂成型	1986.2	29	12	1,607
⑫広瀬工場	電子部品、半導体等の研究開発及び生産	1989.3	25	24	1,299
●トヨタ自動車九州(株)	ハリヤー、クルーガー	1992.12	127	25	2,095
●トヨタ自動車北海道(株)	オートマチックトランスミッション、トランスファー、アルミホイールなど自動車部品	1992.10	98	17	1,303
●トヨタ自動車東北(株)	メカトロ部品の生産	1998.10	29	2	149

注)1. 2004年3月現在、但し事業内容・生産品目は2005年2月現在。
 2. トヨタ自動車九州(株)、トヨタ自動車北海道(株)、トヨタ自動車東北(株)はトヨタ自動車の100%出資会社。
 3. 土地面積は賃借中の土地面積を含む。

■その他の拠点

名称	事業内容	完成年月	土地面積	建物面積	社員数
東富士研究所 ^{※1}	車両の新技術開発及びエンジンの新技術研究	1966.11	200万㎡	23万㎡	2,541人
土別試験場 ^{※1}	車両の高速総合性能・各種寒冷地試験及び評価	1984.10	930	2	189
名港センター	車両船積	1964.5	66	2	30
飛鳥センター	海外向け部品の船積	1985.6	28	0.3	—
春日部品センター	補給部品各センターの統括	1961.9	10	5	56
稲沢部品センター	大物補給部品の入出荷	1978.10	11	6	76
大口部品センター	中・小物補給部品の入出荷	1978.1	10	6	190
上郷物流センター	海外及び国内遠隔地生産用部品・内外装補給部品の入出荷、車両中継地	1968.8	36	14	245
飛鳥物流センター	海外向けの生産用部品・補給部品の入出荷	1988.11	24	8	152

注) ※1 2005年2月現在。積は2004年3月現在。

資料：トヨタ自動車(株)

—土地の広さについて—

上の表で、たとえば元町工場は160万㎡もの広さがあります。

これはどのくらいの広さでしょうか。全校児童が1,000人くらいの小学校の運動場が、だいたい1万㎡ですから、その160倍、160個もの運動場ができます。

(2) 豊田市の自動車産業のはじまり

明治・大正時代の豊田市は「拳母」とよばれ、マユの取引地として栄えていました。しかし、昭和5(1930)年ごろから、だんだん生糸(まゆの糸)の売上げは減少していくようになりました。

そのころ、同じ愛知県内の刈谷市にある豊田自動織機製作所という会社で、自動車の研究が始まっていたのです。この会社は豊田佐吉がつくった会社で、布をおる機械をつくる会社でした。この会社の中で自動車の研究をしていたのは、豊田佐吉の子どもである豊田喜一郎です。このころは国産の自動車はほとんどない時代で、自動車をつくることは、国内では未知のことでした。

したがって、喜一郎は、仲間といっしょに大変な苦勞をしました。そして昭和10(1935)年、A1型試作乗用車が完成し、翌年、昭和11(1936)年に第1号の乗用車AA型をつくりあげたのです。その後、何度も改良をつづけ、立派な自動車を完成させました。それから次に考えたことは、この自動車を大量生産できる工場を建設することでした。



豊田喜一郎



トヨタAA型乗用車

まず、工場用地を探すことから始まりました。いくつかの場所が考えられましたが、当時の拳母町の協力も得て、現在の本社工場のある場所に決まりました。この場所は「論地が原」とよばれ、雑草や木々が茂り、キツネやタヌキが出るような土地でした。

この「論地が原」がえらばれた理由は、次のとおりです。

1. 名古屋市を中心とした工業地帯に近い。
2. 近くに農家が多く、はたらき手が得やすい。
3. 鉄道が通っているので、材料がはこびやすい。
4. 土地はかなり広いのに農地が少ないので、田や畑をつぶさなくてもすむ。

昭和 12（1937）年にはトヨタ自動車工業株式会社が設立され、昭和 13（1938）年 11 月 3 日に挙母工場（今の本社工場）で生産が始まりました。



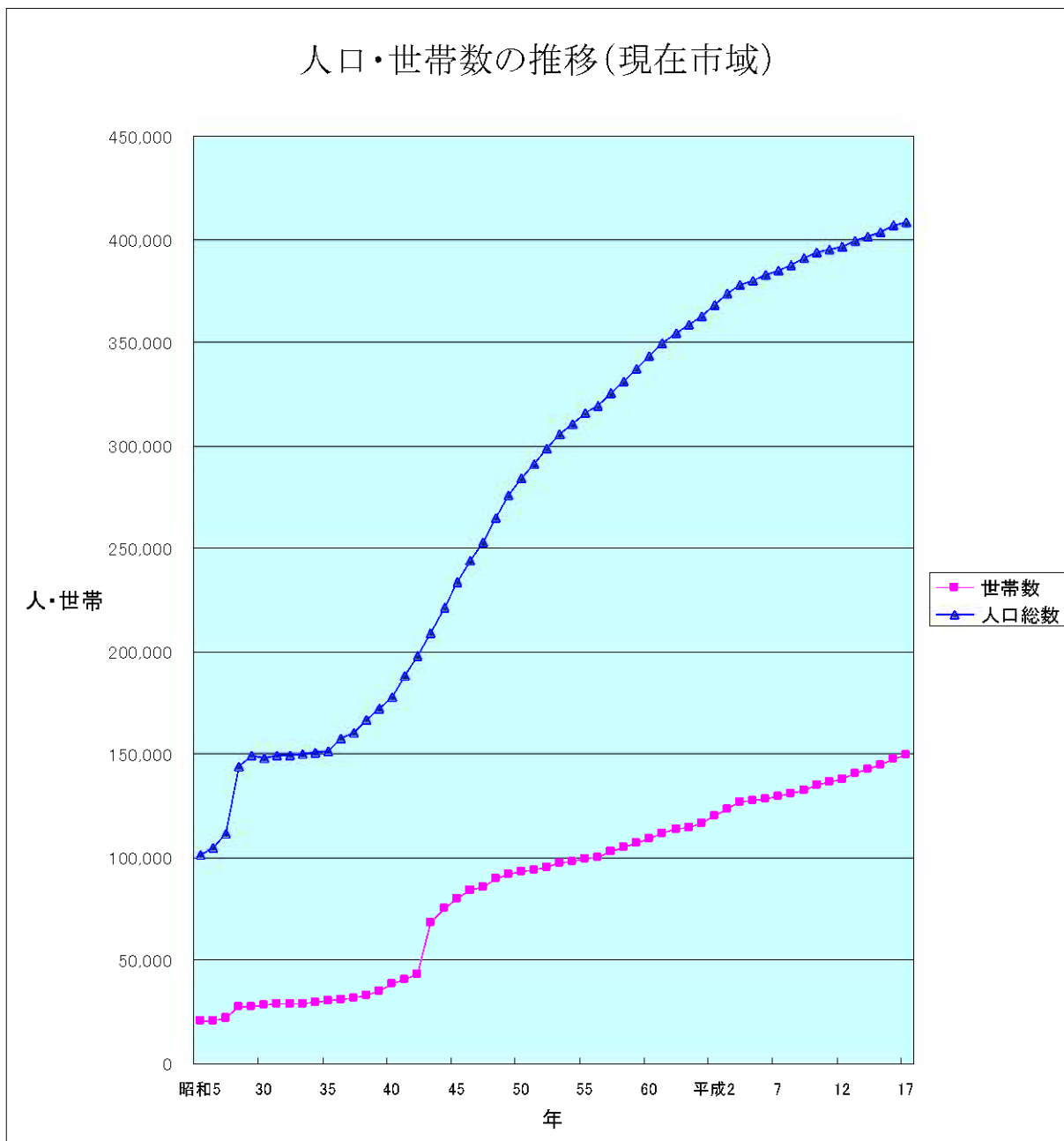
建設当初の挙母工場

(3) 自動車産業の発展

拳母工場（今の本社工場）の完成によって、昭和 15（1940）年の生産台数は、1万 5,000 台ほどになりました。しかし、その後の第2次世界大戦の影響で生産台数は落ち始め、多くの人が職を失いました。

しかし、昭和 25（1950）年に朝鮮半島で戦争がおこり、トラックなどの注文がたくさんきたことにより、生産が増えました。昭和 30（1955）年ごろからは、自動車の中でも乗用車を中心に生産するようになり、昭和 34（1959）年に乗用車の専門工場として元町工場が完成、生産台数は大きく増えました。また、昭和 40（1965）年には、エンジンの専門工場である上郷工場が完成しました。

そのころには、豊田市にはたくさんの関連会社ができってきました。トヨタ自動車の工場や関連会社の工場が増えるにつれて、そこで働く人が豊田市に多くやってきて、人口が急激に増加し始めました。その後、次第に国内や海外で販売台数は増え、豊田市は「クルマのまち」と言われるようになりました。



(4) 関連会社の工場

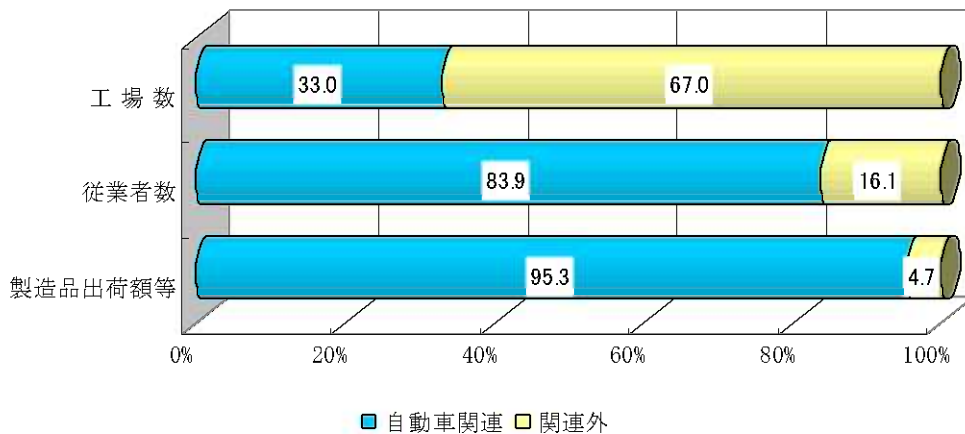
トヨタ自動車には、12の工場があり、このうち4ヶ所が「組立工場」、のこりの8ヶ所が「エンジンや電子部分品等をつくる工場」です。

1台の自動車は、約3万点以上もの部品でつくられています。これらの部品はトヨタ自動車の工場だけではなく、そのほかの関連会社でも、さまざまな部品がつくられるようになりました。

関連会社はトヨタ自動車の工場の近くに集まっていますが、豊田市内だけでなく、愛知県内各地のほか、関東地方、静岡県、関西地方にもあります。これら遠くの関連会社からは、高速道路などを使い、トラックで部品が運ばれてきます。組立工場は、関連会社に「どの部品が」「いつ」「どれだけ」必要かを知らせます。関連会社はその連絡をもとに部品をつくり、決められた時に決められた数だけを組立工場へ持って行きます。

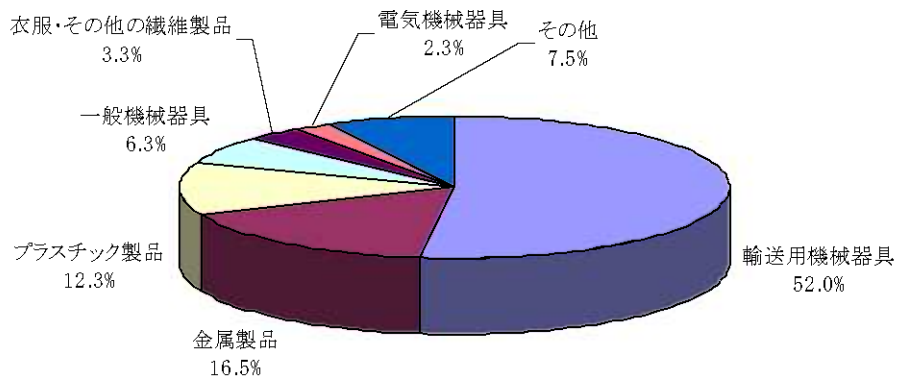
下の棒グラフは、市内すべての工場（製造業）のうち、自動車関連会社の占める割合を、工場数・従業者数・製造品出荷額等について見ることができます。また、円グラフでは、市内の自動車関連会社が、どのようなものを製造しているかを表しています。

自動車関連の占める割合



資料：工業統計調査（豊田市独自集計結果）（H15）

自動車関連製造業 産業別工場数の割合



資料：工業統計調査（豊田市独自集計結果）（H15）

(5) 工場のつながり

大規模な関連会社だけで、自動車の全部品をつくることはできません。大規模な関連会社は、別の関連会社に部品を発注します。そして、その関連会社も、また別の関連会社へ部品を発注するのです。

このように、一台の自動車は、いくつもの会社で多くの人々の手により、つくられます。

また、部品をつくる会社のほかに、次のような会社もあります。

- ボデー、タイヤ等の材料をつくる会社
- 部品やできた自動車を運ぶ会社
- 自動車を販売する会社
- 自動車を海外へ運ぶ会社
- 自動車を修理する会社
- 部品をつくるための機械をつくる会社
- 工場を建てたり、なおしたりする会社

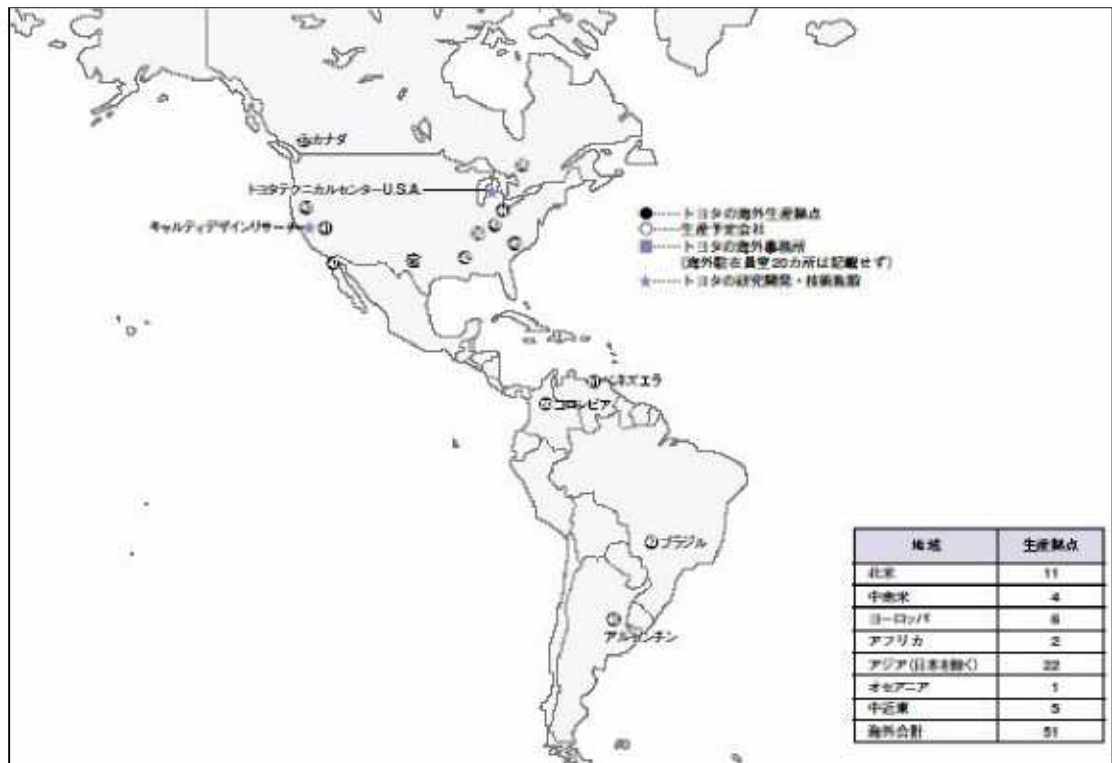
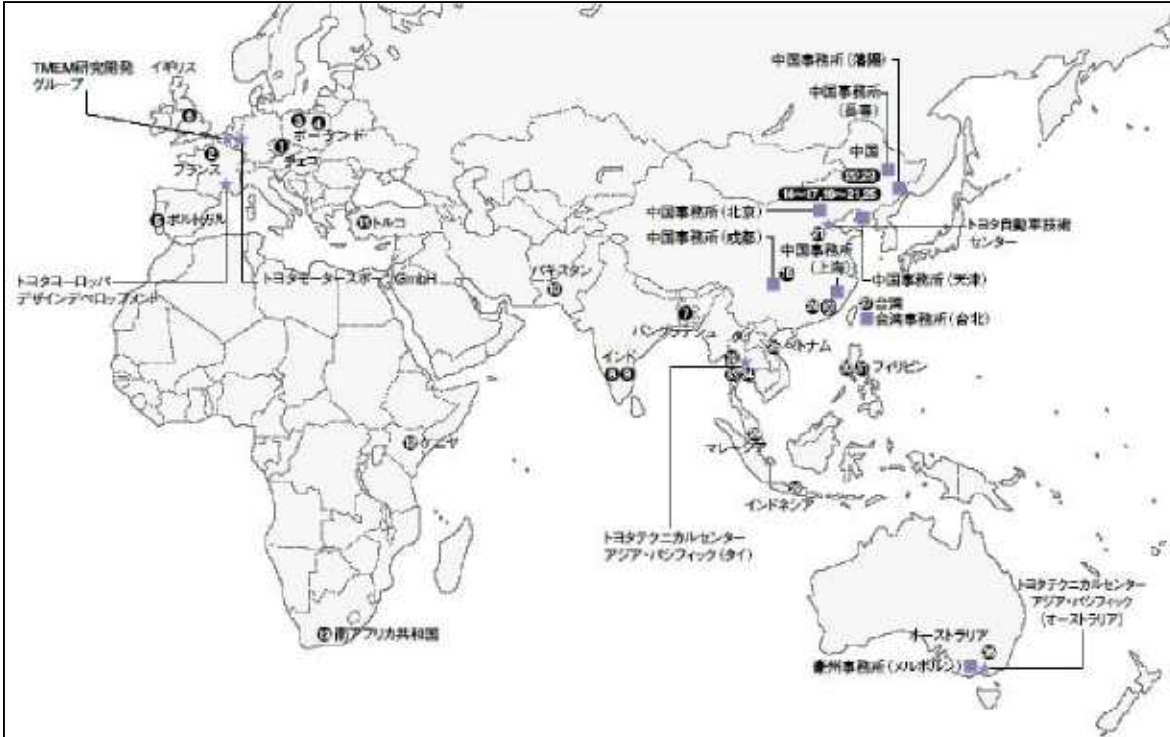
これらの会社や工場は、お互いに結びついて自動車産業を形づくっています。このように、自動車の生産や販売や修理にかかわっている人はたくさんいます。全国でも、働いている人のおよそ 10 人に 1 人が自動車産業にたずさわっている (※) と言われます。

※ (社) 日本自動車工業会発表による

(6) 自動車の輸出と海外生産

日本で1年間に生産される自動車のうち、およそ35%の約379万台〔平成17(2005)年〕をトヨタ自動車がつくっています。そのうち約204万台(生産台数の54%)が、アメリカやヨーロッパのほか世界各国に輸出されています。また、トヨタ自動車やほかの自動車会社も、車を輸出するだけでなく、海外に、単独またはその国の自動車会社と共同で会社を設立し、自動車をつくっています。

海外生産拠点等 (26カ国/地域 ・ 生産会社51社)



資料：トヨタ自動車(株)

8. 自動車のできるまで

(研究・開発)

①開発会議



②エアバッグテスト



③衝突テスト



(製造)

3万個以上の部品が、いろいろな工程を通して、組立てられて1台の自動車ができます。



①原料

材料置き場には、ぐるぐるにまかれた鉄の板が、たくさん置いてあります。この鉄板（コイル板）は、製鉄会社より運ばれてきます。



②プレス

コイル板から切りとった鉄の板をプレス機械にかけて、ドア、ボンネット、車の天井などのボデー部品をつくります。



③溶接

溶接工場では、主にロボットを使い、ボデー部品をつなぎ合わせて、車の形をつくります。



④塗装

塗装工場では、下ぬり、中ぬり、上ぬりと3回の塗装を行い、サビをふせぐとともに、美しい色に仕上げます。

⑤^{ちゅうぞう} 铸造

溶鉱炉で溶かした鉄やアルミを型に流しこみ、エンジンなどの部品をつくります。

⑥^{たんぞう} 鍛造

熱した鋼材などをプレス機で加工して、歯車やシャフトをつくります。

⑦機械加工・組みつけ

鋳造ちゅうぞうや鍛造たんぞうで作った部品を機械で精密に加工します。これらの部品を使ってエンジンなどを組立てます。



⑦-1. エンジンの組付け



⑦-2. タイヤの組付け



⑦-3. シートの組付け



⑦-4. ガラス取付け



⑧検査

全写真：トヨタ自動車(株)

9. 豊田市の変化

自動車産業が発展していくとともに、市民の生活も大きく変化しました。農家で働いていた多くの人は、工場などで働くようになりました。

昭和 34 年に元町工場ができたころから、市内だけでなく市外、県外からも、たくさんの働き手がやってきました。人口は急速に増加し、そのために豊田市では小学校がたりなくなり、昭和 40 年頃から次々と建設されました。また、住宅も不足し、個人住宅・社宅・公営住宅等が市内各所につくられ、これにともない、公園や病院、公民館などの公共施設が整えられました。

豊田市は通勤通学などの日常生活の中で、自動車を利用する人が大変多く、朝夕はしばしば交通渋滞がみられます。したがって、こうした交通難を解消するため、市内各地で道路が整備され、また、住みよい生活ができるよう下水道の建設などもすすめられています。

豊田市概図



写真でみる豊田市

★ 豊田スタジアム ★

市制 50 周年記念のシンボル施設として、平成 13 年 7 月にオープン。

サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールなどトップクラスの国際試合に対応。またコンサート会場としても利用されている。最大収容人数 4 万 5,000 人。



★ 豊田市美術館 ★

平成7年11月開館。広い館内には、11の展示室、閲覧図書室、AVブース、講堂、アトリエなど。



《オイゲニア・プリマフェージュの肖像》

ウィーン分離派を代表する作家グスタフ・クリムトの晩年の作

★ 豊田市コンサートホール・能楽堂 ★

平成 10 年 11 月開館。

音響のよさを追求したシューボックス型コンサートホール。開館から 5 年目にあたる平成 15 年夏、待望のパイプオルガンが完成。荘厳な音色で聴衆を魅了する。



コンサートホール

能楽堂は、総ひのき張りの舞台と切り妻造りの屋根が、みやびな雰囲気醸し出す。ここでは、能・狂言をはじめ、邦楽や舞踊など様々な伝統芸能に触れることができる。



能楽堂

★ 豊田おいでんまつり ★

オリジナル曲に合わせて市街地を踊り歩く「おいでん総踊り」や、矢作川河川敷で全国でも有数の規模を誇る花火大会が行われる。3日間で約80万人が集まる。(7月最終金・土・日曜日)





★ 挙母まつり ★

市街地の8つの町が、それぞれ自慢の山車をひき回す勇壮かつ華麗な祭り。

(10月第3土・日曜日)

★ 猿投まつり ★

愛知県無形民俗文化財に指定されている郷土芸能「棒の手」が奉納される。次々に繰り広げられる棒の手の演技を観るために多くの人が集まる。

(10月第2土・日曜日)





★ 四季桜まつり ★

毎年、秋に和紙のふるさとや小原ふれあい公園を会場に開催。シキザクラの可憐な姿を楽しもうと、多くの観光客でにぎわう。

(11月中旬)

★ 香嵐溪 ★

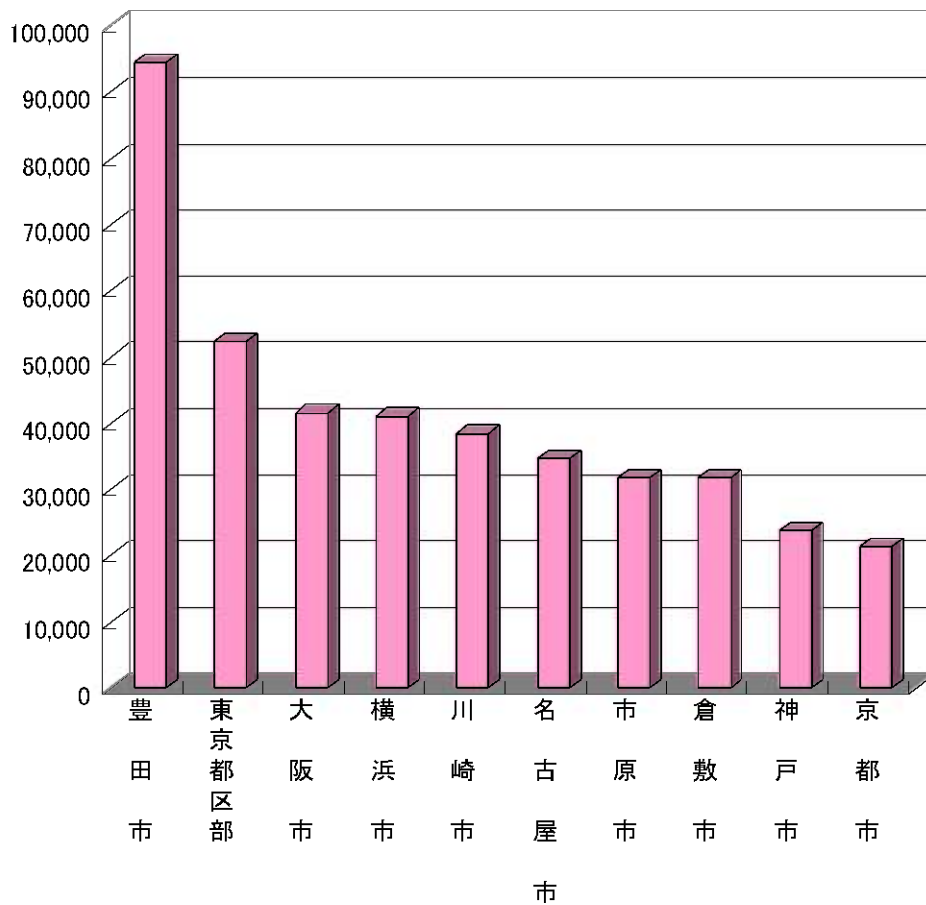
全国に名高い錦秋の華やかな紅葉。期間中はライトアップされ、様々な催しが行われる。(11月)



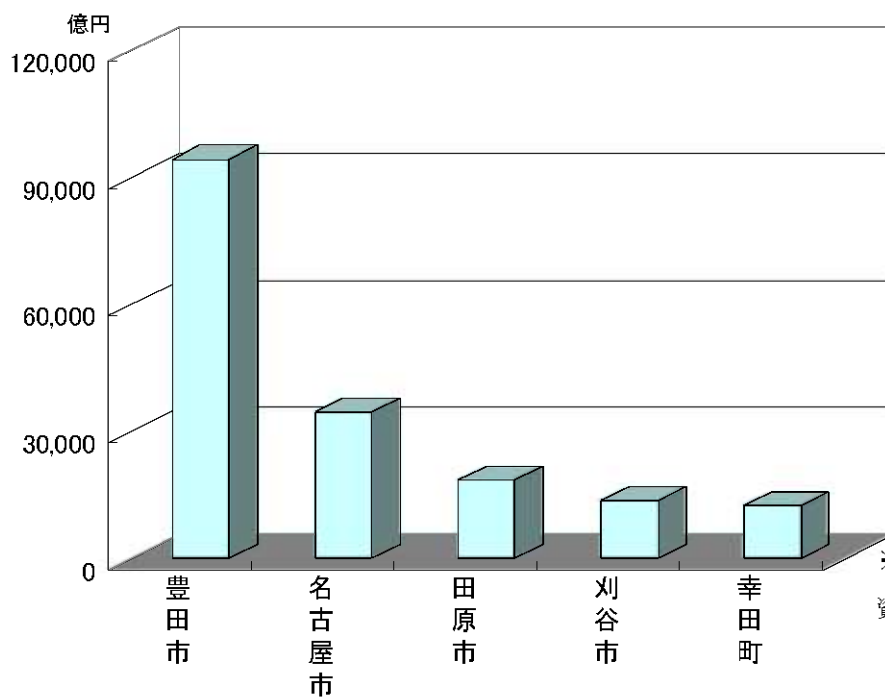
参考

① 【工業】製造品出荷額等 全国順位 【 1位～10位 】

億円



② 【工業】製造品出荷額等 県内順位 【 1位～5位 】



※ 従業者4人以上の事業所
資料：工業統計調査（H15）

私たちのまちと自動車産業（平成18年版）

平成18年2月発行

編集・発行

愛知県豊田市総務部庶務課

〒471-8501

豊田市西町3丁目60番地

電話（0565）34-6667

FAX（0565）31-8623
